

リゾクトニア属菌による病害と
野菜・果樹の細菌性病害防除剤

農林水産省登録
第17386号



バリダシン[®]液剤5

バリダシンは住友化学(株)の登録商標

ブロッコリーの
軟腐病に
適用拡大!



稲作から園芸まで
安心のロングセラー



特長

①有効成分バリダマイシンAは、病原菌がエネルギー源とするトレハロースの分解酵素(トレハラーゼ)の働きを阻害し、リゾクトニア病害および細菌性病害に効果を示します。

②ユニークな作用機構で、薬剤感受性低下の心配がほとんどなく、他剤に感受性の低下した菌にも効果を示します。

③適用作物への汚れの心配がほとんどありません。

■適用病害と使用方法

2023年12月現在の登録内容(色字は2023年11月22日適用拡大)

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期※	本剤の使用回数	バリダマイシンを含む農薬の総使用回数	使用方法					
もも	せん孔細菌病	500倍	200～700ℓ/10a	7日	4回以内	4回以内	散 布					
すもも	黒斑病			3日								
うめ	かいよう病			7日								
かんきつ	株腐病	5回以内										
キャベツ	黒軟腐病		5回以内									
ブロッコリー	黒軟腐病			3回以内								
はくさい	黒軟腐病	3回以内										
レタス	すそ敗腐病		3回以内									
非結球レタス	軟腐病			3回以内								
きゅうり	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	1回										
ねぎ	白絹病		2回以内		3回以内 (は種時の灌注は1回以内、散布及び株元散布は合計2回以内)	灌 注						
	軟腐病			株元散布								
だいこん	腐敗病	500倍	100～300ℓ/10a		前日	4回以内	4回以内	散 布				
たまねぎ	軟腐病			7日								
しょうが	紋枯病								3日			
みつば	立枯病	800倍	100～300ℓ/10a	14日	4回以内	4回以内	散 布					
	にんにく			春腐病				育苗期	1回			
				ふき				白絹病		移植後 但し収穫7日前まで、 伏せ込み栽培は 伏せ込み前まで	3回以内	4回以内 (育苗期は1回以内、 移植後は3回以内)
ふき (ふきのとう)	白絹病	3日	5回以内	5回以内	灌 注							
		3ℓ/m ²				7日	5回以内	30分間種茎浸漬				
		—				植付時			1回	(種茎浸漬は1回以内)		
にら	葉腐病	800倍	100～300ℓ/10a	刈揃え前まで	3回以内	3回以内	散 布					
								3ℓ/m ²	30日	5回以内	灌 注	
								3ℓ/m ²	30日			5回以内
ばれいしょ	黒あざ病	200倍	—	貯蔵前 又は植付前	1回	7回以内 (種いもへの処理 は1回以内、 植付後は6回以内)	瞬時～10分間種いも浸漬					
								10倍	種いも100kg当り 2.5～3ℓ	植付前	種いも散布	
		だいすめ 未成熟とうもろこし	青軟腐病	500倍	100～300ℓ/10a	3日	6回以内	散 布				
葉焼病	7日											
紋枯病									3回以内	3回以内		
稲	紋枯病 疑似紋枯症 (赤色菌核病菌 褐色菌核病菌 褐色紋枯病菌) もみ枯細菌病	1000倍	60～150ℓ/10a	14日	5回以内	6回以内 (育苗箱灌注は 1回以内、本田では 5回以内)	散 布					
								紋枯病	300倍	25ℓ/10a	1回	灌 注
								稲 (箱育苗)				
てんさい	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	400倍	3～6ℓ/m ²	育苗中期	8回以内	8回以内	散 布					
はばたん	黒腐病	800倍	100～300ℓ/10a	発病初期				8回以内	8回以内	散 布		
西洋芝 (ベントグラス)	葉腐病 (ブラウンパッチ)	1000倍	1ℓ/m ²								500倍	0.5～1ℓ/m ²
日本芝	葉腐病 (ラージパッチ)	500倍	0.5～1ℓ/m ²									

※収穫物への残留回避のため、その日まで使用できる収穫前日数の制限を示します。太字は細菌性病害です。

⚠ 使用上の注意

- ボルドー液との混用はさけてください。
- うめ、かんきつのかいよう病に対しては効果がやや劣る場合がありますので、他剤と輪番使用をするより有効です。
- 稲の苗立枯病に使用する場合、白絹病菌、リゾクトニア菌による苗立枯病には有効ですが、その他の菌による苗立枯病には効果が劣るので、注意してください。
- 本田の水稲に対して希釈倍数300倍で散布する場合は、所定量を均一に散布できる乗用型・速度連動式地上液剤少量散布装置を使用してください。
- レタス、非結球レタスに使用する場合、すそ枯病の防除を主体とし、多発生の腐敗病には効果が劣ることがあるので注意してください。
- ばれいしょの青枯病に使用する場合、本病の多発する圃場では、登録のある土壌くん蒸剤等との併用処理をしてください。
- ばれいしょの軟腐病に対しては効果が劣る場合がありますので、他剤と輪番使用をするより有効です。
- ばれいしょの種いもに使用する場合は下記の注意を守ってください。
 - ①切断した種いもを処理する場合、切断面が乾いた後に行なってください。
 - ②種いも散布の場合は、種いもを床などに広げ、全体が均一にぬれるよう散布してください。
 - ③処理した種いもは、よく風乾してから植付けてください。
- ふき及びふき(ふきのとう)に使用する場合は、種茎浸漬処理と植付後の灌注を組合わせて使用してください。
- トマト、きく(秀芳の力等)には薬害を生じるおそれがあるので、かからないように注意して散布してください。
- だいこんの軟腐病が多発するような条件では本剤はやや効果が劣る場合がありますので、なるべく早めの散布をし、他剤との輪番使用をするより有効です。
- 眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗してください。
- 使用の際は不浸透性手袋などを着用してください。
- 処理した種いもは、食料や動物飼料として用いないでください。
- 公園等で使用する場合は、使用中および使用後(少なくとも使用当日)に小児や使用に関係のない者が使用区域内に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意してください。
- 適用作物群に属する作物またはその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 直射日光を避け、なるべく低温で乾燥した場所に密栓して保管してください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●小児の手の届くところには置かないでください。●空袋・空容器は圃場等に放置せず適切に処理してください。

この印刷物は2023年12月現在の登録内容に基づいて記載しております。